

江戸時代藩校の魅力

～漢学 藩校における中国文化 part 4～

藩校とは江戸時代、各藩によって設立・経営され、藩士の子弟育成のための学校です。藩費(はんこう)、藩学、藩学校とも言います。各藩が人材養成に力を入れ、ほとんどの有力大名が藩校を設け、発展期を迎え、全国 255 校をも数えました。初期の藩主の学問所や招へいされた碩儒の家塾的なものから、組織・校舎などが整備され、総合的教育のための藩の重要な施設となりました。学習内容は「文武兼備」を目標としましたが、実際には文の比重が大きいです。年少で入学し、まず文を学び、15 歳前後から武をも学ぶ例が多いです。学習の中枢は漢学で、すべての藩学で行われており、初学者にも四書五経などの儒学書の素読と習字を課しました。



藩校は藩士の忠誠心を養う人格陶冶から、藩の富国強兵のための時務に通ずる吏僚の知識技能を培う実学教育を目ざす方向に進んでいきました。また、結果として地方文化の振興にも貢献しました。1871(明治 4)年の廃藩置県で廃止され、一部は公私立の専門学校、中学校、小学校に変わりました。藩校は日本の教育の原点です。

第 4 期は、赤穂藩(兵庫県)「博文館」、姫路藩(同)「仁寿山費」、土佐藩(高知県)「教授館」、島原藩(長崎県)「稽古館」、松前藩(北海道)「徴典館」=写真、佐倉藩(千葉県)「成徳書院」を取り上げます。

【開講日】 2026 年 1 月 31 日(土)

2 月以降第 1 土曜 13 時半～15 時

※日程詳細とカリキュラムは裏面

【講師】



胡 金定

(甲南大学名誉教授、一般社団法人・

日中文化振興事業団代表理事)

【受講料】 6ヵ月6回 1万6500円

*文化センターの常設講座が初めての方は別途、入会金が必要です。

講座の申し込み・問い合わせは

☎ 06-6346-8700

毎日文化センター

〒530-8251 大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル2階

受付時間

火・木・金 9:30-20:00
月・水・土・日 9:30-17:00

ホームページから申し込みができます。

毎日文化センター 大阪

<https://www.maibun.co.jp/>

全講座紹介

第1回 1月31日(第5土曜) 赤穂藩「博文館」=兵庫県

博文館は藩儒だった赤松滄洲・蘭室親子によって計画され、藩主・森忠興によって1777年に現在の「鶴の丸公園」（上仮屋南）に開校。漢学と武芸を主教科とし、藩内の武家の子弟が教育を受けました。残っている平面図によると、講堂、学寮、練武場があったとされます。1872（明治5）年の学制発布後は「博文小学校」となり、現在の赤穂小学校へと系譜がつながっています。

第2回 2月7日 姫路藩「仁寿山饗」三回

仁寿山巒は姫路酒井家家老・河合道臣(寸翁)が建てた私塾です。1821 年藩政改革の功績により藩主・酒井忠実から幡下山(はたしたやま)を与えられ、仁寿山巒の建設を開始し、1822 年に完成しています。仁寿山という名は、前藩主・忠道が論語の「子曰、知者楽水、仁者乐山、知者動、仁者静、知者楽、仁者寿」から名付けられました。

第3回 3月7日 土佐藩「教授館」＝高知県

土佐藩 8代藩主・山内豊敷（とよのぶ）が1760年に常設の藩校として創設しました。9代藩主・豊雍（とよちか）は教授館（こうじゅかん）と改称しました。谷真潮、宮地春樹、戸部良熙などが教授役で、朱子学を中心に藩士の教育にあたりました。13代藩主・豊熙（とよてる）まで熱意をもって館を運営してきましたが、豊熙没後は急速に衰えました。

第4回 4月4日 島原藩「稽古館」＝長崎県

島原藩は1793年、学術振興のため、「稽古館」を開きました。開校にあたり藩主は、「自今、士族の男子八歳より入校、学に就くべし。業に奉仕する者は勤務の余暇に登校し、会読、講義を聴講すべし」と布達しています。学科は徳行、経学、文学、史学、国学、律学、兵学、医学、天文学の9科目ありました。授業のあるのは原則として1カ月のうち、4と9のつく日で、月に6回、午後3時開講、月謝は無料でした。

第5回 5月2日 松前藩「徴典館」＝北海道

1821 年、幕府は直轄をやめて蝦夷（えぞ）全島を松前氏にかえました。復領後は、かつてあった上級家臣の場所知行を廃止して全島を藩直領とし、藩校「徴典館（きてんかん）」を創立して人材養成をはかり、蝦夷地の警備体制を強化します。「徴典館」の名称は、1805 年福島県にできた藩学校に、大学頭・林衡によって選ばれました。この「徴典」という語句は、書經舜典の「慎徽五典」（慎みて五典を徴くす）から採ったもので、人倫五常の道を修める所という意味。松前藩の藩校にも同じ名前が付けられました。

第6回 6月6日 佐倉藩「成徳書院」＝千葉県

房総地方最大の佐倉藩の藩校「成徳書院」は医学、武術、兵学、砲術その他いっさいの教育を行い、現在の総合大学に相当する教育機関となりました。成徳書院には8～14歳の幼年者が入学しましたが、そのうち城内居住の藩士の師弟は西塾へ、城外居住の藩士および一般庶民の子弟は東塾で学びました。成徳書院は1871年の廃藩置県により廃止となりましたが、その伝統の一端は、現在の千葉県立佐倉高校に受け継がれています。

